

## 環境保全型農産物の価格に対する生産者と消費者の評価

農業・園芸総合研究所

### 1 取り上げた理由

近年、消費者の安心安全に対する関心が高まり、環境にやさしい農産物の要望も高まっている。また、生産者も環境負荷の少ない農業に取り組む事例が増えている。

そこで、生産者と消費者の意向調査を行い、「環境にやさしい農業」に対する認識と環境保全型生産技術である天敵利用により生産された農産物の価格に対する意向調査を行ったところ、その傾向が明らかとなったので、普及情報とする。

### 2 普及情報

- 1) 生産者の約8割は「消費者は環境にやさしい農業に取り組むことで生じる生産者の苦勞を理解していない」(図1)、消費者の約9割は「生産者の負担が増す」と認識しており(図2)、環境にやさしい農業に対する生産者と消費者の理解に大きな隔りがある。
- 2) 9割以上の生産者がイチゴの販売価格が2割以上高ければ取り組むとしているのに対し(図3)、「環境にやさしい農産物」を購入する機会が多い消費者層(図4)は、日常「環境にやさしい農産物」を購入する際も通常価格とほぼ同じ金額で購入する傾向がある(図5)。

### 3 利活用の留意点

- 1) 減農薬栽培技術を導入する場合、「環境に配慮した農産物価格」は生産者が期待するほど付加価値がつかない傾向があるという点を考慮すべきである。
- 2) 「環境にやさしい農業」に対する生産者と消費者の理解に大きな隔りがあり、今後この意識のズレをどのように埋めていくかが生産及び販売促進上の問題点である。
- 3) 量販店および市場の聞き取り調査によると、減農薬(減化学肥料)農産物は通常価格で販売する傾向がある。また、量販店の有機農産物取扱量は増えている。
- 4) 参考データは、イチゴ観光農園を訪れた消費者(103名)とA地域農業改良普及センタ-管内イチゴ生産者(106戸)を対象としたアンケート調査結果である。

#### 4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間：寒冷地におけるハクサイ・イチゴの環境保全型栽培技術の確立  
平成14年度(平成13～14年度)

2) 参考データ

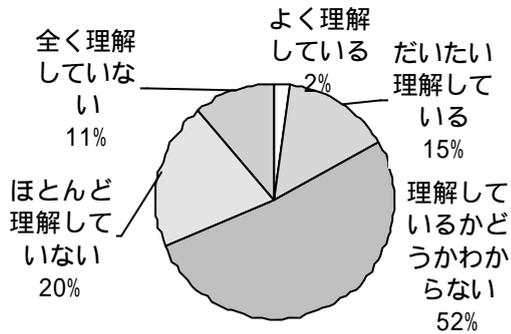


図1 環境にやさしい農業に対する理解  
注)消費者は理解しているか?(生産者の回答)

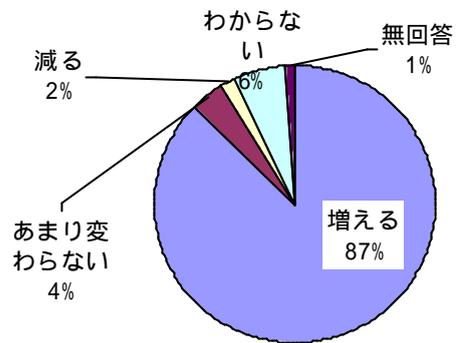


図2 環境にやさしい農業に対する理解  
注)生産者の負担はどうか?(消費者の回答)

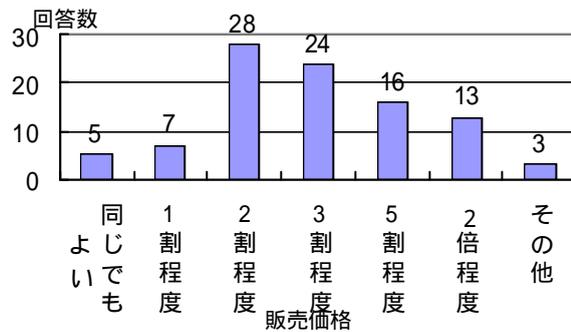


図3 生産者が減農薬に取り組む場合の販売価格(慣行の農産物価格に比べて)

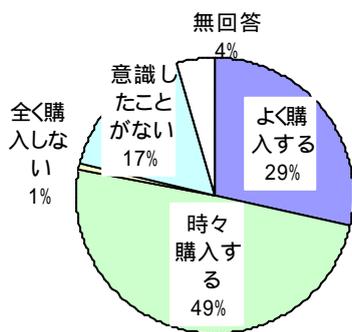


図4 観光農園を訪れる消費者の  
環境にやさしい農産物購入状況

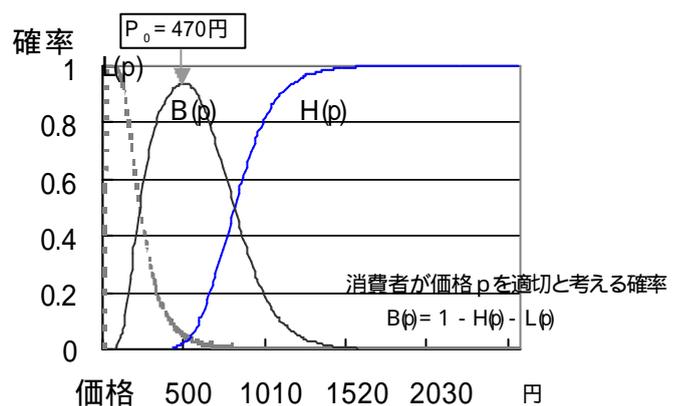


図5 観光農園を訪れる消費者の購売価格反応  
注)普段購入するイチゴ1パックを500円とした場合、一般小売店で「環境にやさしい農産物」を購入する際の「高すぎて買わない価格」と「安すぎて買わない価格」を基にした購買価格反応。

3) 発表論文等 なし